



AEDとは？ AEDの設置施設について

心臓が突然止まるのは、心臓がブルブルと細かくふるえる「心室細動」が原因となることが少なくありません。この場合には、できるだけ早く心臓に電気ショックを与え、心臓のふるえを取り除くことがとても重要です。AED（自動体外式除細動器）は、この電気ショックを行うための機器です。自動的に心電図を解析して電気ショックが必要かどうかを判断し、音声メッセージで必要な対応を指示してくれますので、一般の人でも簡単に確実に操作することができます。

上島町では、以下の学校施設や公共施設にAEDを設置しています。また、上島町ホームページの「上島町AED設置マップ」から設置場所を確認することができます。

弓削

弓削小学校
弓削中学校
弓削高等学校
弓削商船高等専門学校
弓削総合支所
弓削商船高等専門学校（白砂寮）
フェスパ
弓削開発総合センター
弓削保育所
潮湯
高浜荘
久司浦集会所
沢津集会所
大谷集会所
狩尾集会所

生名

生名小学校
海光園
生名保育所
スポレク公園
蛙石荘
立石港港務所
生名老人デイサービスセンター
生名総合支所
西浦集会所
稲浦集会所

岩城

岩城小学校
岩城中学校
長江グラウンド放送室
岩城総合支所
岩城診療所
ひまわり100年館
岩城保育所
海原集会所消防車庫
西部公民館消防車庫
北集会所広場消防車庫
船越公民館倉庫

魚島

魚島総合支所
魚島小・中学校
魚島保健福祉センター龍宮苑
高井神公民館



上島町ホームページの
こちらから検索する
ことができます。



救命講習を受講してみませんか？

上島町消防本部では、普通救命講習の講習会を実施しています。講習内容は、心肺蘇生やAED、異物除去、止血法などについて3時間学ぶ講習内容となっております。修了証の交付を行っています。

大切な人の命を守るため、普通救命講習を受講してみませんか。詳しくは、消防署までお問い合わせください。

令和4年12月出動件数

地区	弓削	生名	岩城	魚島	その他	合計	R4累計
火災	0	0	0	0	0	0	1
救急	17	11	10	0	1	39	436

(令和4年12月31日現在)

上島町消防本部・消防署
消防防災課

☎ 77-4118
☎ 77-3166

AEDの使用方法

①AEDを倒れている人の頭の近くに置く。

②AEDの電源を入れる。

AED本体のふたを開け、電源ボタンを押します。
電源を入れたら、音声メッセージに従って操作します。

③電極パッドを貼る。

倒れている人の胸をはだけます。
電極パッドを絵のとおり直接貼付けます。



もしもの時に備えて、住宅用火災
警報器を設置しましょう！

住宅用火災警報器は火災を早期に
発見するために設置が義務付けら
れています。



◆果樹園の土壌改良

「野菜類」は作付けごとに土を耕して栽培しますが、永年作物である「かんきつ類」は、一度植え付けると数十年間は同じ場所です栽培することになります。

生育の良否は順調に根が伸びて養水分を正常に吸収できることが重要です。今回は、植物の根を順調に発根させるための土壌改良について解説します。

1 根の生育

かんきつの根は、新芽の発生した後に発生し、6月、8月、11月頃に発根量が増加します。
なかには8月頃まで発根しない品種もあり、隔年結

2 発根を促進させる土壌条件

土は無機成分（石がこなれたもの）や有機成分（植物の分解物など）の粒で構成され、土の種類により成分が異なります。

上島町の果樹園の多くは花崗岩という石が長い年月かけて風化した真砂土と呼ばれる粘土混じりの瘦せた砂土です。排水はよいですが、何年も耕さなければ粘土を含んでいるため、雨で硬く締まりやすい性質があ



写真 かんきつ類の細根

果性の激しい品種がこの傾向が強いようです。
発根量は、樹の外周部に多く、細い根が養水分をよく吸収します（写真参照）。

ります。植物の根は、土の粒の隙間をぬって伸びるので、土が硬く締まると根を伸ばすことができません。根が伸びやすい土は感覚的には柔らかい土ですが、科学的にはどんな土でしょうか。

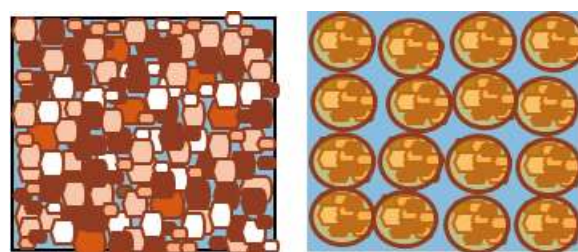


図1 土の単粒構造（左）と団粒構造（右）の模式図

3 畑の土を柔らかくするためには

土を「団粒構造」にするには、腐植と呼ばれる植物の分解物を多く含む土にします。

腐葉土や樹皮を多く含む堆肥、稲わらや刈草などを毎年、畑に入れるとよいでしょう（1㎡当たり1kg程度）。アズミンという肥料はこれら有機物の代替資材になります。

また、土を耕すことで土の中に空気を送り込むため一時的に気相が増えます。

ただし、果樹類では、耕起することで表層の根を切ってしまうので実施する

た土にするには、土を「団粒構造」という状態にする必要があります（図1参照）。
「団粒構造」は、土の粒を塊（かたまり）にして、塊の間に隙間を作る構造のことです。どのようにすれば、「団粒構造」ができるのでしょうか。

時期（冬～早春）に注意して、頻繁には行わない方がよいでしょう。
果樹類では、冬の休眠期に樹の周りの外側の数か所にスコップで穴を掘り腐葉土や堆肥をいれて埋め戻す方法がよいでしょう（図2参照）。

腐植が増えると、肥料持ちがよくなります。あわせて、化学的な土壌改良として、2月～3月にかけて石灰資材（苦土石灰やカキガラ石灰など）を1アール（100㎡）当たり10kgを土にまくことで、土の酸度矯正ができて肥料を有効に吸収できます。

土壌改良は毎年続けて行うことが効果的です。



図2 果樹類の有機物施用